

( 続紙 1)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                |    |      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----|------|
| 京都大学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 博士（地域研究）                                       | 氏名 | 佐川 徹 |
| 論文題目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 東アフリカ牧畜社会における戦争と平和の動態<br>ーエチオピア西南部ダサネッチの民族間関係ー |    |      |
| <p>（論文内容の要旨）</p> <p>本論文は、民族間紛争が頻発する東アフリカの牧畜地域を対象として、とくにエチオピア西南部に暮らすダサネッチと近隣民族との戦争と平和の動態に焦点をあてて、この人びとのあいだの民族間関係の総体を明らかにすることを目的としている。</p> <p>第1章「序論」では、本研究の背景と目的を示した。戦争と平和を対象とした従来の人類学的研究においては、このふたつの現象は二項対立的に捉えられ、またその分析レベルは個人ではなく集団に置かれる傾向がつよかった。それに対して本論文は、戦争と平和を連続的な過程として捉え、個々人が自己の経験や社会関係に立脚して、みずから戦争と平和をどのように作りだしているのかを明らかにすることを目的とした。</p> <p>第2章「ダサネッチの概要」では、エチオピア西南部、オモ川の氾濫原地域に暮らすダサネッチ社会では豊かな食糧生産が可能であり、その居住域は、食糧を求めて近隣民族が集まる場となっていること、またダサネッチ社会では社会組織の結合力が弱く、各個人がその時々状況に応じて多様な行為を選択することが可能になっていることを指摘した。</p> <p>第3章「国家と民族間関係」では、ダサネッチが歴史的に国家勢力といかなる関係を取り結び、それが地域の民族間関係にどのような影響を与えてきたのかを検討した。その結果、19世紀末以降には複数の国家勢力の影響によって民族間の敵対関係が増幅され、また銃の流入と拡散により民族間の戦いの強度が激化してきたことを明らかにした。</p> <p>第4章「戦争と自己決定権」では、まず、ダサネッチ社会には敵を殺害して家畜を略奪した男性を「勇敢な男」として賞賛する「暴力の文化」が存在することを記述・分析した。つぎに、人びとが「戦争に行く／行かない」という選択をする際に、いかなる要因が関与しているのかを検討し、個々人が過去の戦争経験に依拠しておこなう意思決定が重要な契機となっていることを示した。最後に、ダサネッチ社会にはある出来事を「ともに体験した」人びとの自己決定を相互に受け入れあうという、他者に対する特徴的な態度が存在しており、それによって個人が「戦争に行かない」という選択をすることが可能になっていることを指摘した。</p> |                                                |    |      |

第5章「横断的紐帯と境界」では、まず、個人間には民族境界を越えて友人関係や親族関係が維持されていることを記述し、その背景には、訪問してきた他者に対する歓待の営みが存在していることを示した。つぎに平和から戦争、戦争から平和へといたる動態を、民族間境界の形成と流動化の過程に注目しながら明らかにした。最後に、異なる民族に帰属する成員間に友好的あるいは敵対的な相互行為がくり広げられる背景には、彼らが「家畜とともに生きる人びと」であることから生じる「共同社会意識」が存在していること、そして戦争と平和の動態とは、ダサネッチと「敵」がそのような意識にもとづいて、その場で対面する他者が求める関係形態に呼応して行為選択を重ねてきたことから生じた事態として理解できることを論じた。

第6章「外部介入と平和維持」では、近年になって紛争への介入を本格化している外部アクターの活動に焦点をあて、それが、この地域の平和維持に対してどのように貢献できるのかを検討した。まず、平和回復を目的として政府が開催した会合の分析から、介入者が在来の文化形式を利用することで、一定の成果をあげていることを明らかにした。そして、今後の介入においては、人びとが他者との相互行為に対するつよい志向性をもつことを深く理解し、それを基盤として形成される個人的な社会関係を活用することが必要であることを論じた。

第7章「結論」では、ダサネッチ社会における人間観と戦争や平和に関する現象との関係を検討した。そして、人びとが対面的な相互行為の場において非常に深い関与をもとめるという社会関係のあり方を、「平和へと向かうローカルなポテンシャル」として強調する必要があると指摘した。

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、東アフリカ牧畜社会における戦争と平和の動態を個人の視点から記述・分析し、この地域の民族間関係の総体を明らかにすることを目的としている。東アフリカの乾燥地域に広がる牧畜社会では、長年にわたって民族間紛争がくり返されてきた。1980年代以降には自動小銃の拡散によって紛争の強度が増し、死傷者数も増加している。そのために近年では、この地域に対する政府や国際機関の関心が高まり、紛争の抑止や平和構築をめざした介入が実施されている。ただし、この地域の民族間には単純な敵対的関係だけでなく、民族境界を越えて親族や友人関係が形成されるなど、友好的な関係も同時に維持されている。本論文は戦争と平和を対立させるのではなく、連続的な過程として把握することによって、こうした複雑な民族間関係の総体を分析することを目指した地域研究の成果である。具体的に対象としたのは、エチオピア・ケニア・スーダンの国境付近に暮らすダサネッチと、その近隣民族との関係である。

本論文が採用している方法論の大きな特徴は、民族間の関係を個々人の視点にまで遡及して把握・分析している点である。民族間関係に関する従来の研究では、ひとつの民族内部に多様な立場が存在することが十分に考慮されてこなかった。本研究が、174名の成人男性を対象として詳細な聞き取り調査を実施し、綿密なマイクロデータを収集・活用することによって、複雑な民族間関係の諸相を解明することに成功した功績は大きい。

本論文の重要な学問的貢献のひとつは、民族間には敵対的な関係と友好的な関係とが並存しているという、一見矛盾した状況を理解するために必要な分析と解釈の枠組みを提示したことである。ダサネッチは近隣民族とのあいだに戦いを重ねながらも、戦争が一段落すると個々人が自発的に相互往来を再開し、共住や交易をとおして親密な社会関係を築いている。それを可能にしているのは、この地域の牧畜民が自他ともに「家畜とともに生きる人びと」とであると認識し、それにもとづいて「共同社会意識」を有しているためである。そして、対面的な社会交渉の場においてダサネッチと近隣民族の成員は、他者の求める関係形態に呼応して相互に行為選択を重ねており、戦争と平和の動態とは、その行為選択と不可分に生起するものとして理解されることを、本論文は説得的に論じている。この地域の牧畜民は、他者との対面的な相互行為において非常に「深い関与を志向する」という特徴的な態度を共有していることが指摘されてきた。本論文は、その特徴を民族境界を越えた対人関係にまで拡張して議論を深化させており、これは高い評価に値する。

本論文のつぎの貢献は、この地域の人びとの営みの中に「自発的に平和へと向かうローカルなポテンシャル」を見いだしたこと、そして、近年にこの地域において紛争への介入を本格化しつつある外部アクターが、そのポテンシャルを活用することをとおして、より適切な介入を進めるための構想を示したことである。本論文は、平和を構築・維持しようとする現地の人びとの日常的な実践を、多様な事例の記述・分析にもとづいて克明に明らかにした。そして本論文は、上記の「深い関与を志向する」という特性や、そこから生まれる個人的な友好関係を活用することにより、外部アクターは、より効果的な介入をおこなうことができると指摘している。第三世界の周縁地域において平和を構築・維持することは、国際社会が解決すべき喫緊の課題である。本論文は、現地調査に根ざした地域研究が、こうした課題に対していかに実践的に応答しうるのかを示したが、これは非常に優れた業績である。

よって本論文は、博士（地域研究）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成 20 年 11 月 7 日、論文内容とそれに関連した事項について試問した結果、合格と認めた。

論文内容の要旨及び審査の結果の要旨は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。特許申請、雑誌掲載等の関係により、学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日：                      年                      月                      日以降